

# 平成22年度奨学生募集要項

財団法人 津田記念育英会

平成22年度奨学生を下記要領にて募集いたします。

## 要 項

1. 応募資格 平成22年4月現在、短期大学・大学もしくは大学院に在籍する学生で、次のいずれかに該当する者。年齢・性別・学科は問いません。
  - ①神奈川県に居住して通学する者
  - ②神奈川県内の短期大学・大学・大学院に通学する者
  - ③その他前項に準ずる場合
2. 応募方法 指定の奨学生願書と裏面の選考課題に必要事項を自筆で記入し、4月21日(水)までに、所属学科・専攻事務室へ必要書類を揃え、提出してください。
3. 選考方法 書類選考の上、面接は6月13日(日)に予定しています。(該当者には6月初旬に文書で連絡します)。  
選考結果は7月上旬頃通知します。
4. 採用人員等 大学奨学生(短期大学を含む) 15名 月額 20,000円(返済不要)  
大学院奨学生 3名 月額 20,000円(返済不要)
5. 支給期間 平成22年4月分より、在学する学校の正規の最短就業年限の終期まで年2回(4月と10月、但し初年度については7月と10月)、指定の預金口座に振り込みます。
6. 支給条件 振り込み後、奨学金受領書を当会へ返送する。  
毎学年末の成績証明書を翌4月に当会へ送付する。
7. 問合せ先 〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目15番14号 外神田ストークビル405  
財団法人 津田記念育英会 担当：小島  
E-mail : tsudakinen@yahoo.co.jp

\*ご注意：選考経過・結果についてのお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。

## 概 要

- |       |   |
|-------|---|
| 名 称   | 財団法人 津田記念育英会  |
| 設 立   | 昭和59年4月17日  |
| 代 表 者 | 理 事 長 小島 久實   |
| 所 在   | 東京都千代田区外神田6丁目15番14号 外神田ストークビル405  |
| 事業内容  | ①奨学金の給付；使途の制限・返済の必要はありません。また奨学生が在学中・卒業後にわたって、いかなる拘束を受けることもありません。<br>②交歓会；毎年1回、理事と奨学生全員で交歓会を開き親睦を深めます。<br>③OB会；卒業後、OBの交流が盛んです。異業種交流の場を得ることができます。 |

## 来 歴

当会は、わが国グラフィックアーツ界に大きな足跡を残した津田隆治の業績を讃え、その事跡をあまねく世にひろめることを目的として設立されました。

津田隆治は、明治34年(1901年)9月11日兵庫県津名郡洲本町に生まれ、大正14年東京高等工芸学校印刷工芸科(現在の千葉大学工学部の前身)を第1期生として卒業。その後、第一グラビア印刷株式会社取締役工場長、富士写真フイルム株式会社嘱託を経て、昭和25年3月プロセス資材株式会社を創立、当時まだ近代化の遅れていた業界にあって、新技術導入の先鞭をつけました。以後、昭和57年4月に逝去するまでの三十余年に亙り、同社を業界随一の技術商社として育て上げる一方、わが国グラフィックアーツ界において、数多くの功績を残し、その発展に尽力しました。

津田隆治の幅広い好奇心・向学心あるいは不屈の精神は多くの人の知るどころであり、故人の在りし日の情熱を現在に伝え、グラフィックアーツに対する理解を深めて頂くというのが、当会の願いであります。従ってこの分野に関係の深い方はもちろんのこと、まったく初めて耳にしたという方でも応募してください。大変興味深い分野であることがわかって頂けることと思います。

激動の中で発展を続ける日本社会。明日の日本を造り、さらに繁栄させて行くためには、幅広い視野と応用力に富んだ頭脳が要求されることでしょう。そういった人々とともに、当会は歩んで行きたいと考えています。

## 役 員 (五十音順)

理 事 長	小島 久實	評 議 員	石川 充彦	正田 佳世
常務理事	小島 瑞会		小川 信子	鋤柄 光則
理 事	久保 敦彦		押味 弘和	関 清三
	小門 宏		小畑 廣永	辻内 順平
	角倉 一朗		久保 走一	中島 倫
	西本 晃二		小谷部育子	
	本多 健一		近藤 健	
監 事	加藤 三郎		清水 勇	
	山村 茂		正田 章	

### グラフィックアーツとは？

現代社会において、多種多様な方面で重要な役割をはたし、数ある知識産業・情報産業の中でも根幹を構成する「印刷分野」を意味しており、その守備範囲は我々の社会生活全般に広がっている。

たとえば、紙の上に印刷を行なうという点から、各種書籍・雑誌類を扱う出版業界が、日々新しいニュースを提供する新聞業界が、またポスター・POP・パンフレットなどを扱う広告業界が、グラフィックアーツを基礎として成立している。一方、「水と空気以外のすべての物質に印刷することが可能になった」と言われる技術によって、プリント生地・建材・各種包装品・IC基板・シャドウマスクなど様々な業界の多種多様な品目への応用がなされ、繊維・建材・食品・電気などの業界に貢献している。多寡はあるにしても、今日グラフィックアーツと関連のない業界はないといえよう。

このように、単に「印刷」と言った時に連想される以上の奥行きをもっているのがグラフィックアーツである。